中四国DXサミット2025
内海機械の内海社長が登壇
〝変化〟を実現した事例を紹介

中四国DXサミット2025「〝取り組み〟を〝変化〟につなげ、行動のヒントを掴む」が、7月15日13時からHiromalab（広島市）で開催。（一社）中国経済連合会と㈱INDUSTRIAL-Xが主催した。DX・AI活用の事例紹介だけでなく、共通課題を紐解きながら参加者の行動変容を促す内容で、ネットワーキングや個別相談も行われた。

パネルディスカッション「〝変化〟を実現した企業の実例と仕組みづくり」に㈱内海機械（府中市鵜飼町743―1）の内海和浩社長が登壇した。同社は、「ぶっちぎりの超短納期」で知られているが、2018年から取り組むDXの実績を紹介した。自らが新しもの好きと話す内海社長は、AI活用話題にいち早く興味を持ち、ものづくり補助金を活用して、400万円弱の設備導入支援を受けた。これを皮切りにAIとIoTを活用したリアルタイムデータの取得で機械の稼働率を可視化。3年間で稼働率が約30%向上。

生産性の向上は社員の意識改革にもつながり、作業効率や段取り時間をデータで分析。1人が複数台を操作するマルチタスク体制を実現した。社員の間では資格取得も活発化し、13種の資格を取得した例もあるという。近畿大学との産学連携にも取り組み、AI活用による作業時間の省力化にも成果を上げている。

社員は、外部からの見学者やメディア取材から自分たちが見られることで意識が変わり、仕事に対する姿勢が変化した。納期短縮にも強くなり、顧客からの信頼も厚くなった。7月末には新工場が竣工予定で、「DX・AIを活用することで、古い機械がどんどん新しくなった。いいことばかり」と効果を語った。